

上尾市立大石南小学校 学力向上プラン「グランドデザイン」

学校教育目標

《心豊かでたくましい子の育成》

○思いやりのある子(徳) ○よく考える子(知) ○元気な子(体)

学校課題研究主題

「主体的に学び、自らの考えや思いを適切に表現することができる児童の育成」

～読むことを楽しませる発問の追究～

学力・学習状況調査の結果

R7全国学力・学習状況調査

○国語、算数ともに平均正答率は全国平均を下回っている。
○国語では、言葉の意味や文法的な知識はもっているものの、それを基に「自分の考えを組み立て(思考)、判断し、文章として出力する(表現)」という連のプロセスに課題を抱えている。
○算数では、図形の性質を理解し、図形を空間的に捉えることに課題がある。また、基本的な計算はできても、それを文章問題や複雑な課題の中でどう使うかを判断する力に弱さがある。
○理科では、「エネルギー」や「粒子」といった、直接目で見るできない抽象的な科学の基本概念の理解に課題がある。

R7埼玉県学力・学習状況調査

○昨年度からの同集団の学力の伸び
【国語】5年生 2レベル、6年生 1レベル
【算数】5年生 2レベル、6年生 1レベル
○5年生は、学習方略の「柔軟的方略」、非認知能力の「向社会性」においてそれぞれ0.2ポイント、県平均を上回っている。R6からの変化量を見ると、「柔軟的方略」「向社会性」がそれぞれ0.2ポイント上回っている。
○6年生は、学習方略の「努力調整方略」において0.2ポイント、非認知能力では「自制心」が0.2ポイント、県平均を上回る結果であった。R6からの変化量を見ると、向上している項目が見られなかった。
○全体的に「自己効力感」が低い結果である。

R6 上尾市立小・中学校学力調査

○【国語】校内の平均正答率において、1つの学年が目標値を「上回っている」結果、4つの学年が「同程度」という結果であった。「思考・判断・表現」の観点では、5学年中4学年が「同程度」、「主体的に学習に取り組む態度」では、6年生は「上回っている」結果、他の3つの学年が「同程度」という結果であった。
○【算数】校内の平均正答率が、1つの学年が目標値を「上回っている」、1つの学年が「同程度」、3つの学年が「下回っている」結果であった。「知識・技能」の観点では、5学年中4学年が「下回っている」結果となり、課題が見受けられた。

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得

- ①一般的な語句等の語彙力、基本的な概念や技能、性質等を理解する力
- ②新たな知識・技能と既習の知識・技能を関連付ける力

思考力・判断力・表現力等の育成

- ③多くの情報から適切な情報を選択し、自分なりの根拠を持って結論を導く力
- ④自分や集団の考えを形成し、他者に分かりやすく伝える力

学びに向かう力・人間性等の涵養

- ⑤困難な課題にも粘り強く向き合う力
- ⑥自己の学びを振り返り、次にどう生かすかを考える力

学力向上のための授業改善

知識及び技能の習得

- ◎基礎力強化
 - ・既習単元の問題演習
 - ・授業内での漢字学習、音読の徹底
- ◎「つなげる」活動
 - ・授業冒頭の復習タイム導入
 - ・既習事項とのつながりを意識化する発問
 - ・学びの全体像をつかむための単元計画の提示

思考力・判断力・表現力等の育成

- ◎問題解決的な学習活動
 - ・児童から問いを引き出し、調べたり考えたりする時間の設定
 - ・考えを導き出すための手立ての充実
- ◎伝える活動の充実
 - ・ICTの活用
 - ・思考ツールの活用
 - ・意図的なペアやグループでの対話活動

学びに向かう力・人間性等の涵養

- ◎興味関心を高める工夫
 - ・児童の生活経験に密着した学習課題や活動の設定
 - ・問題解決のための適切な資料提示
- ◎振り返りでの学びの言語化
 - ・終末での振り返りを実施
 - ・振り返りの視点の明確化
 - ・ノートや学習カードへ継続的な記述指導

本校の特色ある取組

- ・授業冒頭復習タイム ・読書活動の充実
- ・うさなんテストの実施 ・ICT 端末の日常的な活用
- ・外国語学習の充実 ・縦割り活動による協働活動の充実

家庭教育との連携

- ・宿題改革への協力要請
- ・「ラインズ e ライブラリ」の活用
- ・学校応援団による支援
- ・個人面談、教育相談の実施